

墓石の調査をとおして

平成20年1月から、市内の墓石を調査しました。古くからある墓石を調査すると、いろんなことがわかってきます。地元の竜山石がどこで、どのように使われたのか、人々がどのように葬られてきたのか、などです。

調査の対象は、近世からの集落にある、市内全域の墓地95力所です。あまりにも、膨大な数になるので、二つの調査方法で実施しました。

荒井の利生寺・曾根の共同墓地・阿弥陀の共同墓地・中筋の時光寺・米田の共同墓地は、詳しく調査をしました。この5力所は、墓地内の全ての墓石で、石の材質、形態、建立年等です。

他の90力所は、1900年以前の建立のものは、全ての墓石の形態、建立年等で、1901年以降の建立のものは、石の材質のみを調査しました。

調査の結果、高砂市内に、

約3万基の墓石が確認されました。その内訳は、竜山石製が30%、和泉砂岩製が12%、花崗岩製が56%、その他の石材が2%ありまし

た。一方、1900年（明治33年）以前の墓石にしほり込むと、竜山石製が71%、

文化財総合的把握モデル事業

ひと・まち・石

問合先 教育委員会
生涯学習課文化財係
☎448-8255

和泉砂岩製が25%、花崗岩製が3%、その他の石材が1%でした。かつては、竜山石をたくさん使っていたことがわかります。

年号が刻まれている墓石のうち、一番古いものは元和7年（1621）を確認することができました。

調査をしていますと、昭

和30年代以降は、ほとんどの墓石が花崗岩で造られ、地場産業である竜山石製の墓石は見られなくなっています。最近では特に外国産の花崗岩製の墓石が多く見られます。竜山石石材の切り出し、加工技術を将来にわたって伝承していかなくてはならないと痛切に感じました。

また、寺子屋の先生、力士の墓、芸能関係者の墓等も確認しました。墓石からも歴史や文化をのぞくことができます。今後も、これらの資料を整理し、歴史や文化を伝え、活用を図ってみたいと考えています。

（竜山石文化会 高原孝明）

墓石の石材

